

鳥取大学地域医療総合教育研修センターでの 取り組みについて

地域医療総合教育研修センターについて

平成26年6月に設立された鳥取大学地域医療総合教育研修センターは、地域医療を現場で学ぶための教育サテライトとして機能しています。センター設立後、地域医療学講座スタッフが月一木の間、総合診療外来で患者をみながら医学生に外来教育をおこなう、日野町行政と連携した保健介護の連携研究事業、保健学科学生と合同でのオータムセミナー、くろさか地区での地域体験ツアーなど、地域医療教育の拠点として多くの実績を残しています。特に注目すべきは、医学生だけでなく保健学科やYMCAの学生も含めた合同教育が部分的にはじまっている点です。これは医学部内ではまったく実現できなかった取り組みです。さらに、地域へ出かけ住民さんの活動（防災訓練、公民館祭り、夏休み子供教室など）に関わることで、住民さんに地域で学生を受け入れる素地が徐々に育っていることは、



秋のオータムセミナーでの発表準備
(医学生・看護学生が、日野病院の地域医療総合教育研修センターにて)

うれしい限りです。そして、日野病院内でも「学生が来て学ぶ病院」という意識が少しずつ広がり、「ちゃんと教えてあげなくちゃ」という気持ちが出てきているのを、とても心強く感じています。これからの日野病院は、地域へ出かけていく医療に加え、地域医療教育の拠点としてたいへん期待できるフィールドになると思います。それは、すなわち他の施設にはない日野病院独自の魅力となっていくものです。これからも、スタッフの皆さん・住民の皆さんに、益々のご指導ご協力をお願いできればと考えております。

鳥取大学医学部地域医療学講座

教授 谷口晋一

今年も「日野町健康講座」で各地区にお邪魔しています！

昨年度から引き続き、日野町各地区の公民館・集会所にお邪魔して、ほかほか教室をはじめとする健康講座をおこなっています。その中で、11月上旬、鳥取大学で家庭医療研修中の紙本美菜子先生が「もしものときの医療の話」という話題で黒坂3区の住民さんと交流した場面を紹介します。

この日は、将来もし自分から意思を伝えられなくなっても、医師や看護師などがもっともふさわしいと思われる医療を提供できるように、あらかじめ本人や家族が考えたり話し合ったりしておこうという提案を行いました。最初は「なかなか難しいテーマですなあ…」と言われていた方もおられましたので、紙本先生は参加者の自己紹介の時からご家族を看取ったお話、ご自分の病気のこと、こんな風に死にたいなあとか、自然に話題になるよう、自身の体験を交えながら上手に導いていました。こうして、お互いの経験を共有することで、参加者の方から「ピンピンコロリがいいけど、それでは家族に迷惑をかけるから、準備せんといけんなあ！」という発言も出ました。

このように、健康に関する情報を一方的にお伝えするだけではなく、お茶を飲みながら、近所の人々のお話しかも自然と何か学びが得られるような集まりにしていきたいな～と思っています。

(補足) 自分の療養、医療、介護への希望を事前に考えていただけるよう、鳥取県西部医師会が「もしもの時のあんしん手帳」という冊子を発行しました。役場、インターネットなどから無料で入手できますので、ご活用ください！

鳥取大学医学部地域医療学講座

准教授 浜田紀宏



あなたがもしもの時を迎えたとしたら、その前に・・・